

<進捗状況のご報告>

株式会社ジャパンエンジンコーポレーション 中期事業計画（2022年度～2024年度）

2023年 5月 11日

株式会社ジャパンエンジンコーポレーション

（証券コード：6016 / 東証スタンダード）



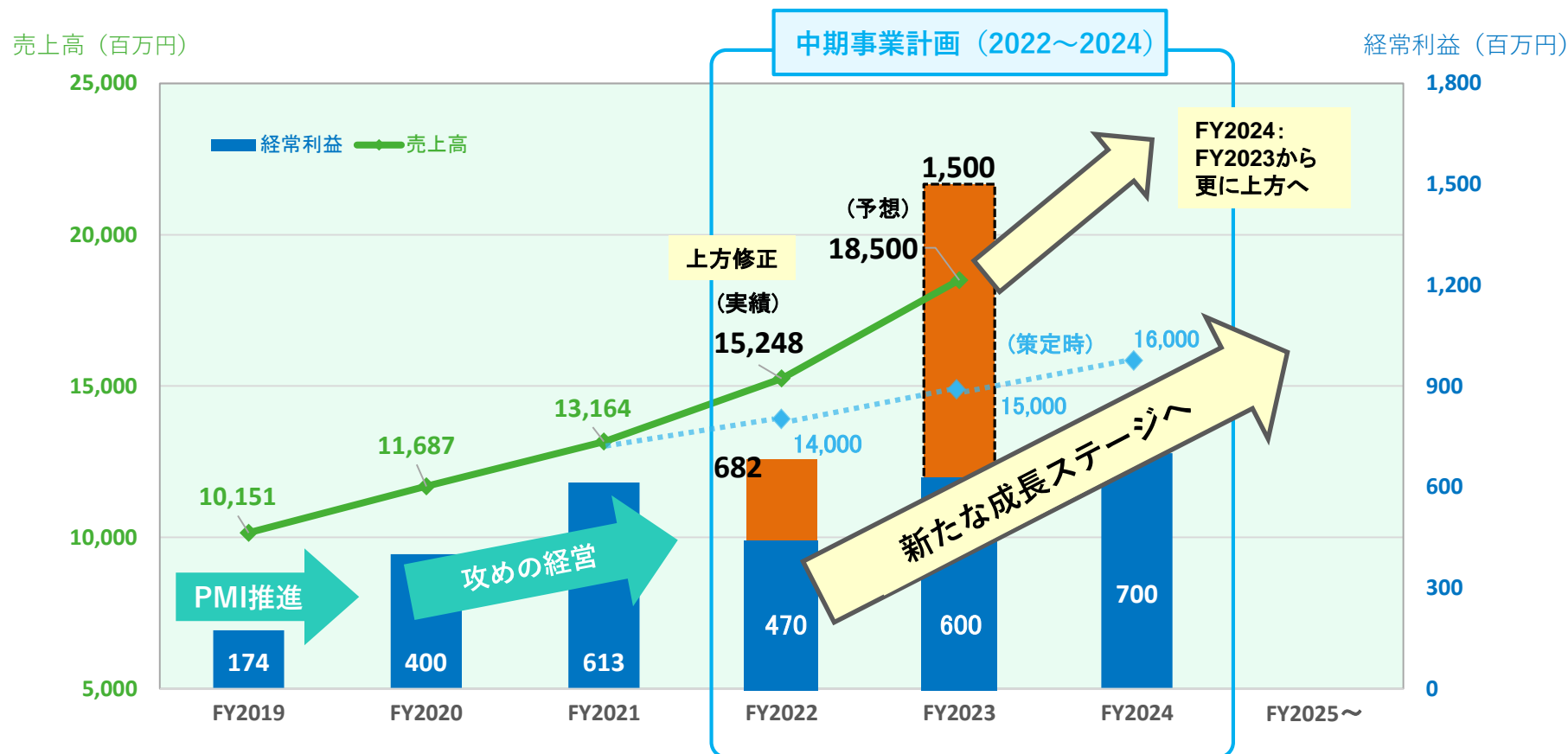
1. 進捗状況 サマリー
2. 2023年3月期 経営成績
3. 2024年3月期 業績見通し
4. 株主還元
5. トピックス
 - ① 事業戦略関連
 - ② ESG経営深化



今治造船株式会社様ご建造
ハンディサイズバルクキャリア向け
6UEC42LSH-Eco-D3-EGR型機関
UE機関4,000万馬力達成 関係者集合写真

1. 進捗状況 サマリー

- これまでの打ち手が的確に結実しており、**業績は想定以上に好調**
- アンモニア・水素燃料エンジン製造に向けた工場設備新設・改修などの先行投資負担も吸収して**事業計画数値を遥かに上回って伸長中**
- **引き続き視界は良好であり、事業計画最終年度のFY2024に向け、成長速度をより一層、加速させていく**



2. 2023年3月期 経営成績

- 業績好調により、当初の策定値を、第2四半期決算発表時（11月10日）に上方修正
- 通期では、売上高、利益ともに、**上方修正後の予想値から更に上振れして着地**
- 事業計画の**当初策定値を超過達成済**

金額単位：百万円

FY2022	通期予想		通期経営成績			
	計画策定値 (5/12予想)	上方修正 (11/10予想) (A)	実績値 (B)	達成率 (B/A)	(参考)	
					前年同期 (単体)	前年同期比
売上高	14,000	14,800	15,248	103%	13,157	116%
営業利益	190	400	442	111%	565	78%
経常利益	470	650	682	105%	602	113%
当期純利益	555	700	808	115%	539	150%

2. 2023年3月期 経営成績（売上高）

主機関、修理・部品等ともに好調を維持。前年同期比 増収

(1) 主機関

①受注好調、生産計画最適化

- ・徹底したマーケットリサーチにより開発したLSH型を中心に受注好調
- ・水素・アンモニア燃料エンジンの実機製造に向けた工場設備の新設・改修工事が進捗する中、生産計画最適化で前年度と同レベルの販売台数(売上高)を確保

②販売単価上昇

- ・環境対応設備(EGR/SCR)を主機関本体にオプションで搭載
- ・最先端技術となるMGO専焼エンジンLSJ型機関の販売

(2) 修理・部品等

①アフターサービス

- ・海外メンテナンス需要が回復
- ・EEXI規制(Energy Efficiency Existing Ship Index / 就航船エネルギー効率指標)に対応する主機関改造工事が受注・売上拡大に貢献

②ライセンス・部品供給

- ・海外ライセンシーでの生産拡大
- ・ロイヤリティー収入および部品供給ビジネスの売上が伸長

③他製品向け取込み工事

- ・設備工事期間中の工場内各種リソースを転活用

2. 2023年3月期 経営成績（損益）

主機関、修理・部品等ともに好調を維持。前年同期比 増益

(1) 主機関

- ・生産性改善

 - 生産計画や部品供給時期の最適化で、工場操業を高位で保持

 - 同型エンジンの連続生産実現で生産効率向上、リピート効果の刈取りを継続

- ・好採算の輸出案件を計上

(2) 修理・部品等

- ・アフターサービス、ライセンス、部品供給、他製品向け取込み工事の全てが
増収となり、増益に寄与

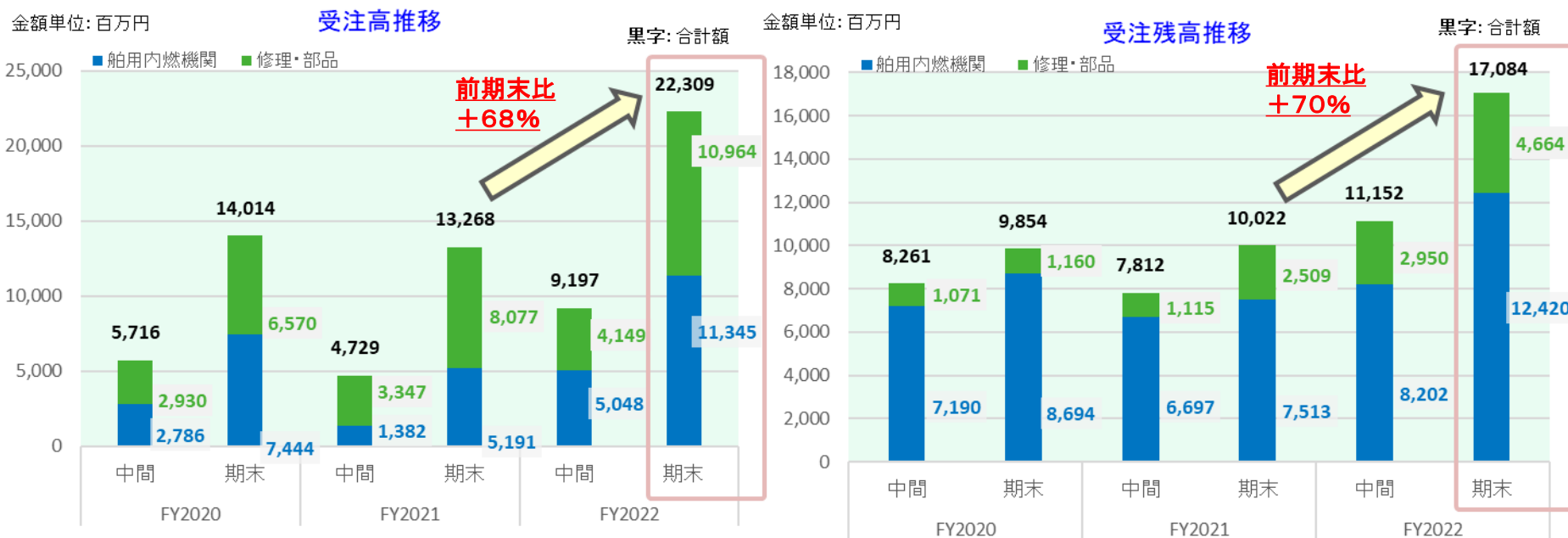
(3) 研究開発費

- ・グリーンイノベーション基金事業のご支援下で、アンモニア・水素燃料エンジンの
開発・製造を進捗させ、研究開発関連費用を計上するも、好調な事業展開を背景に
損益への影響を吸収
- ・開発進捗見合いで受領した交付金は、営業外収益に計上

2. 2023年3月期 経営成績（受注高・受注残高）

主機関、修理・部品等ともに大幅に伸長

主機関	コロナ禍からの経済活動再開で船腹需給が引き締まり、2022年前半は新造船の発注は高水準で推移。当社は、LSH型を中心とした最新鋭省エネ主機関の積極的な営業活動を展開し受注を拡大
修理・部品等	環境規制対応メニューの充実によるアフターサービス事業の伸長、ライセンス事業でのグローバル展開強化などで受注を拡大



※FY2020は連結、FY2021・2022は単体の数値を記載

3. 2024年3月期 業績見通し

- 新たな成長ステージへ移行し、2023年3月期からの**更なる「増収・増益・増配」**を予想
- 事業計画策定値からの**超過達成**を見込む

金額単位: 百万円

FY2023	事業計画 策定値	24年3月期 (127期) 業績予想	(参考)		備考
			前年同期	前年同期比	
売上高	15,000	18,500	15,248	121%	
営業利益	—	500	442	113%	
経常利益	600	1,500	682	220%	
当期純利益	—	1,100	808	136%	

3. 2024年3月期 業績見通し（売上高）

主機関、修理・部品等の全ての事業領域で増収を見込む

(1)主機関

- ・豊富な受注残高を確保済
- ・2024年3月期は上半期に設備工事を予定していることから、売上は下半期に偏る傾向となるが、豊富な受注残高を背景に、売上高は前年同期比+21%の大幅増収の見込み
- ・販売台数は、上半期の設備工事をこなしつつ、通期では前年同期からの増加を見込む
- ・販売単価は引き続き上昇基調を継続

(2)修理・部品等

①アフターサービス

- ・船舶の稼働率は引き続き一定の水準を維持
- ・老齢船延命に向けた大型リハビリ工事の確実な取込み
- ・新規サービスメニューの展開
環境対応設備(EGR/SCR)のアフターサービス展開
海外ライセンシー製エンジンのアフターサービス支援

②ライセンス・部品供給

- ・海外ライセンシーでの当社ライセンスエンジンの受注・生産が引き続き拡大
→ロイヤリティー収入やライセンシーへの部品供給が伸長

③他製品向け取込み工事

- ・設備工事期間中の工場内リソース転活用を継続

3. 2024年3月期 業績見通し（損益）

主機関の生産性改善や、修理・部品等の増収により、増益を見込む

(1)主機関

- ・豊富な受注残を背景に、工場操業は高水準での推移を見込む
- ・同型エンジンの連続生産、部品供給時期の最適化などで生産性向上

(2)修理・部品等

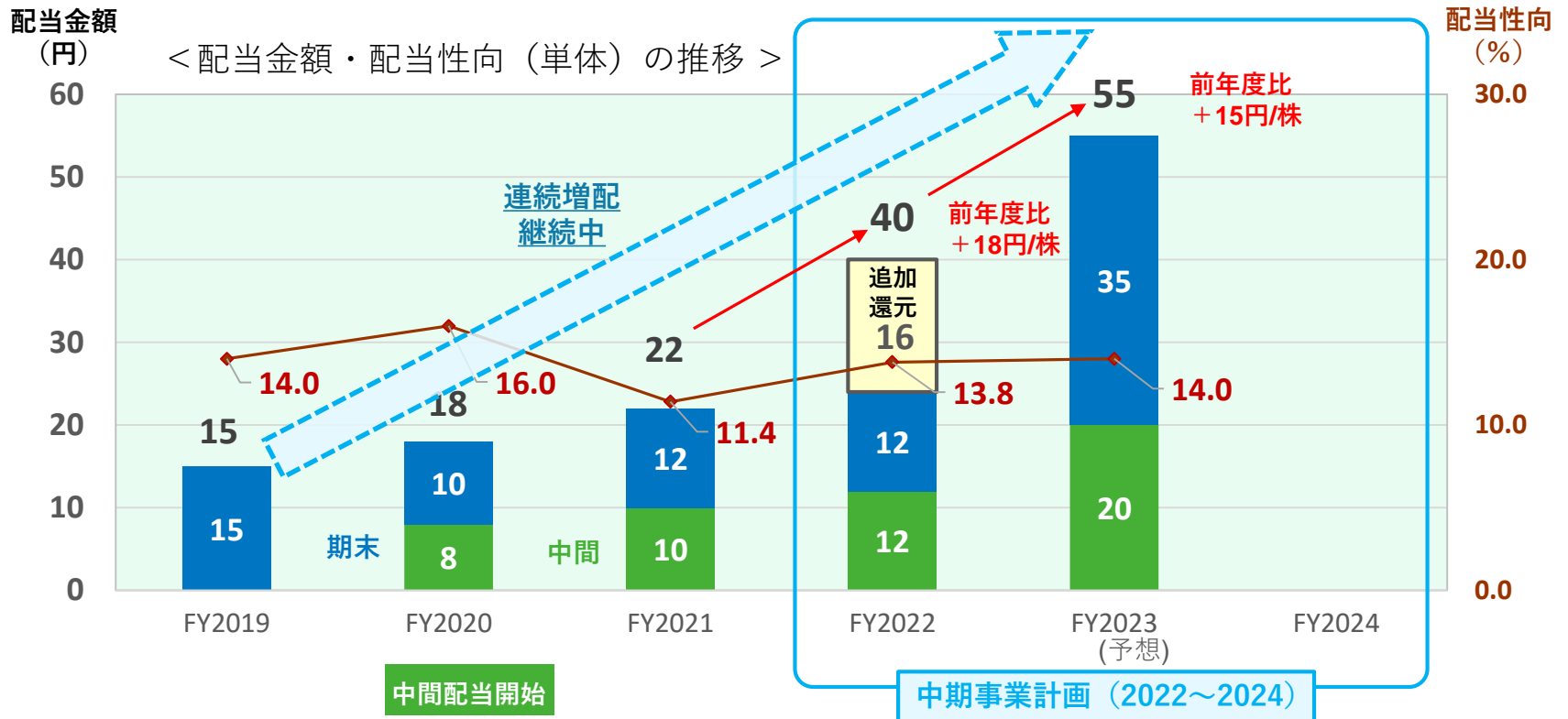
- ・各事業での増収による増益

(3)研究開発

- ・機械装置の取得等により、グリーンイノベーション基金事業での研究開発関連費用の計上が、前年よりも増額となることから、営業利益への影響も大きくなる見込み
- ・その分、開発進捗に応じた交付金も増額となり、営業外収益が前年よりも大きく伸びる予定

4. 株主還元

- ・2022年度は、新燃料エンジンの開発・設備投資などの資金需要が高まる中でも、事業基盤の維持・強化のために必要な財務健全性を確保した上で、**策定時比+16円/株の追加還元**を実施予定。これにより**前年度比+18円/株の増配**を見込む。
- ・2023年度についても、資金需要は引き続き高いと予想するが、業績伸長で、それを吸収することで、**2022年度からの更なる増配**を予想。
- ・当社は今後も、業績伸長に沿って、**株主様への還元**に積極的に取り組んでいく。



5. トピックス (事業戦略関連)

新製品開発

- ★ 既存製品 (重油燃料エンジン) の競争力強化
- ★ 新機軸の製品開発

技術戦略	進捗状況
★ NOx規制の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産エンジンにおける EGR/SCRの搭載比率拡大 ⇒ 主機販売単価の上昇、増収に寄与 <ul style="list-style-type: none"> ✓ LSH型機関での搭載比率 100%に到達見込み (2023年度、当社製造分)
★ 層状噴射エンジン (LSJシリーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6UEC35LSJ型機関 初号機完成 (2022年7月) <ul style="list-style-type: none"> ✓ 層状噴射システムを搭載 (当社独自の先進技術) ✓ 完成時の工場試運転でバイオ燃料100%での運転を実現し、カーボンニュートラルを実証 ✓ 2023年度には、2号機・3号機が完成予定
★ 超低燃費エンジン (LSHシリーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ LSH型機関のシリーズ展開を推進 50LSH、42LSH：市場投入済。主力機種として当社およびライセンシーで連続製造中 33LSH：中国ライセンシーで初号機完成 (2022年9月)
★ GHG削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンモニア・水素燃料エンジンの開発は、当初計画に沿って 順調に進捗中 <ul style="list-style-type: none"> ✓ アンモニア燃料アンモニア輸送船の基本設計承認 (AiP)取得 (2022年9月) ✓ アンモニア燃料エンジン単筒試験機完成 →次頁ご参照 ✓ 本社工場用地を拡張しエンジン実機製造に向けた各種設備を導入中



6UEC35LSJ型機関 初号機



YDE製造 UEC33LSH初号機

(※DX推進状況は、P17に記載)

5. トピックス（事業戦略関連）

GHG削減 アンモニア燃料エンジンの開発（単筒試験機完成）

- ・ 2025年度のエンジン初号機完成に向け、開発は計画通り順調に進捗中
- ・ 開発の大きなマイルストーンとなる試験設備が完成

グリーン
イノベーション
基金事業

外航船(アンモニア燃料アンモニア輸送船)の開発・運航

2021年 アンモニア燃料国産エンジン搭載船舶の社会実装に向けた実証事業を開始
～グリーンイノベーション基金を活用～

2022年 アンモニア燃料アンモニア輸送船の基本設計承認（AiP）を取得

2023年 アンモニア燃料エンジン単筒試験機完成（写真右）

2024年 アンモニア燃料エンジン初号機製造・完成 → 本船搭載へ
～

2026年 本船竣工
実証運航



- ・ 国産2ストローク主機の社会実装
- ・ 国産4ストローク補機の社会実装
- ・ アンモニア燃料外航船の開発・社会実装
- ・ アンモニア海上輸送の低炭素化






2028年 アンモニア燃料一般商船の導入加速

他国に先んじて開発を進める事で、我が国を中心に創出されるアンモニア船
関連需要(エンジン・造船・海上輸送)を機動的に取り込む。

5. トピックス（事業戦略関連）

ライセンス事業の伸長と波及効果

事業区分	進捗状況	
<p>ライセンス</p> <p>波及効果</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規海外ライセンシーGDFでのUE機関 連続製造 ・YDEでの33LSH初号機完成、同型機関含むUE機関の連続製造 ・赤阪鐵工所への当社受注エンジンの製造委託を推進 <p>✓ライセンサーである当社が基軸となり、UEファミリー全体でシェア伸長を実現</p> <p>✓ライセンス事業拡大で当社ロイヤリティー収入も拡大</p> <p>✓製造委託により、当社固定費は抑制しつつ、供給量を増大させ市場需要をタイムリーに取り込み</p>	 <p>GDFで製造中のUEエンジン</p>
<p>部品供給</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライセンシーでのUE機関の受注・製造急拡大に伴い <p>当社部品供給事業の売上も伸長</p> <p>✓拠点集約時（2020年）に本社工場内に自動倉庫を導入済 その後、連結子会社の吸収合併（2022年4月）を経て、 部品の入出荷業務増に対応できる体制へと強化</p> <p>在庫管理徹底・オペレーション効率化で事業伸長に寄与</p>	 <p>当社工場内 自動倉庫 (部品在庫を管理)</p>
<p>アフターサービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外ライセンシーと連携し、「就航船エネルギー効率指標」の規制適合に向けたUEエンジンの改造工事を多数受注 ・ライセンシー製エンジンは、今後も就航が相次ぐことから、アフターサービス事業の支援にも注力し、工事メニュー提案や部品供給体制拡充などを進めていく 	

5. トピックス（事業戦略関連）

国内外ライセンサーとの連携強化

①海外

- 中国・韓国のライセンサーとのライセンス契約を相次いで更新。パートナーシップの更なる強化で、ライセンス事業を一層発展させていきます。

2022年12月 **浙江洋普柴油機有限公司**
(YDE：中国／寧波)

2023年 2月 **中国船舶重工集团柴油機有限公司**
(CSE：中国／青島)

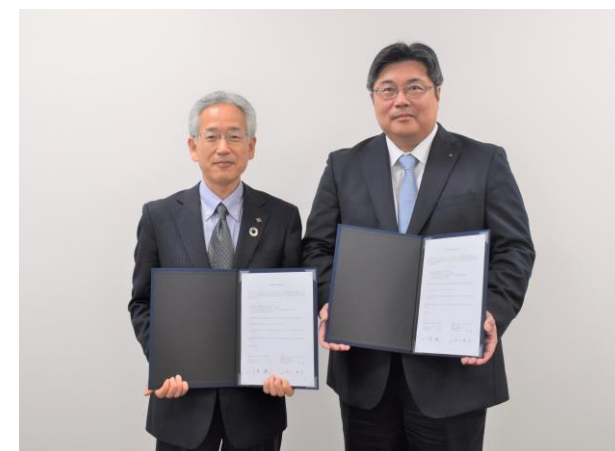
2023年 3月 **現代重工業** (HHI：韓国／蔚山)



現代重工業との契約調印式（韓国／蔚山）

②国内

- 赤阪鐵工所と次世代燃料エンジンの開発・普及の促進に向けた技術協定書を締結（2023年 4月）
- 国内UEライセンサーとして、長年に亘りUEエンジンをライセンス生産している赤阪鐵工所との連携を更に深化させることで、次世代燃料エンジンの開発及び普及の推進を図り、海運・造船・船用業界の持続的な発展に貢献してまいります。

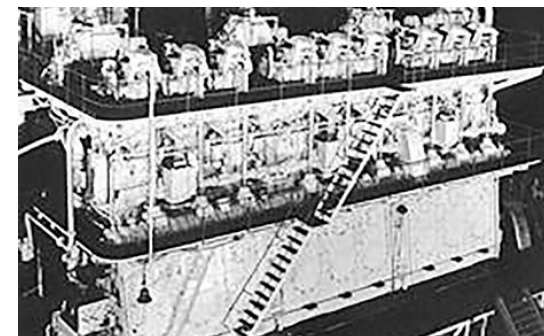


技術協定書 締結時の様子
左：赤阪鐵工所 阪口社長/右：当社 川島社長

5. トピックス（事業戦略関連）

UEエンジン 生産累計 4,000万馬力達成（2022年12月）

- ・当社およびライセンサーでのUEエンジン生産が、累計で**4,000万馬力（累計生産台数4,586台）**を達成しました。
- ・1955年のUE初号機完成以来、約70年間の長きに亘り、多くの船会社様、造船所様、ビジネスパートナー様、株主様などのご愛顧とご支援、並びに各ライセンサー様とのパートナーシップに支えられ、船舶の安全・安定運航に貢献しつつ、ここまでの歴史と生産実績を積み上げてこられました。
改めまして、厚く御礼申し上げます。
- ・当社は、超低燃費エンジン**LSH型シリーズ**や、層状噴射エンジン**LSJ型シリーズ**などで、多くの受注残や有望商談を抱えております。また、**海外ライセンサーでの受注・生産も急拡大**しております。
アンモニア・水素燃料エンジンの開発・実機製造も進めており、UEライセンサーとして、お客様にご満足頂ける製品・サービスを提供し続けて参ります。



12UEC85/180D型機関
(1974年/当時UE機関最大のエンジン)





6UEC42LSH-Eco-D3-EGR型機関
(2022年/4,000万馬力達成エンジン)

5. トピックス（事業戦略関連）

事業基盤深耕

打ち手		推進状況・トピックス
DX 推進	社内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹システム機能追加、勤怠管理システム更新 社内ニーズを取り込み、業務効率化を実現するシステム機能追加・更新を実行中 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 管理部門 電帳法・インボイス制度に対応する機能を追加、勤怠管理を効率化 ✓ 調達部門 発注システムを基幹システムに統合 DXで新たな課題を解決に導くとともに、社内に存在していた複数のシステムを統廃合し、一本化することで更なる効率化を実現していく
	製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ CBM手法の船級承認取得（2022年10月） エンジンの主軸受の状態を温度データとして監視し、異常の有無を判定する手法が一般財団法人 日本海事協会（NK）の認証を取得 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一定の時間が経過すれば、機器の状態に関わらず定期的に検査する従来の手法に代替。機関プラントの状態を常時監視し、最適なメンテナンスを実現可能 ✓ CBM手法の拡充は、IoTやAIを用いた技術開発で、顧客満足の高いサービスを提供する取組みの一環。船舶の高度自動化、自律化も見据えて活動中
リソース 再配置		<ul style="list-style-type: none"> ・ GX戦略推進室の新設（2022年12月） 当社が取り組むGX（グリーン・トランスフォーメーション）を一元管理し、統制のとれた事業戦略を立案・推進する職制として発足。次世代燃料（アンモニア・水素）エンジンの社会実装や、事業活動領域全般での脱炭素化実現などに取り組んでいく




製品を通じての貢献に加え、製造工程における環境負荷も軽減することで気候変動課題に対する取組みを全方位で強化しています

<p>太陽光発電の導入および電力使用量削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工場使用電力を再生エネルギーに転換するべく、Daigasエナジー株式会社様と連携し、本社工場の事務所棟・倉庫棟の計4棟の屋上に、太陽光発電を導入。2023年1月から発電中です。 これに加え、高効率空調機の導入、工場内天井照明のLED化などで、電力使用量自体を削減中です。 	 <p>当社設置の太陽光発電</p>
<p>ISO14001 認証取得</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境課題への取組みは、組織全体でマネジメントしており、それを明確にするべく、既に取得済のISO9001 (品質マネジメントシステム) に加え、ISO14001の認証を2022年12月に取得しました。 	
<p>サステナブルファイナンスの導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンモニア・水素燃料エンジンの開発推進に必要な資金について、当社初となるグリーンローンにて調達を実施しました。(2023年4月) 次世代燃料エンジンの開発は、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組みであり、この活動を支える資金についても、脱炭素経営の趣旨に沿った調達を実行しています。 	<p>グリーンローンによる資金調達の実施について</p> <p>当社は、脱炭素社会の実現に向けたESG経営の取組みを更に進めているため、当社初となる「グリーンローン」による資金調達を実施しました。本ローンは、資金調達先、「脱炭素社会実現に向けたカーボンフリー燃料(水素)アセット」への研究開発によるエンジン開発、社会実装の促進に貢献する事に従ってあり、調達した資金は、水素・アンモニア燃料エンジンの開発・製品化・社会実装を推進する取組みに充てられます。また、本ローンの取組にあたっては、グリーンローンプラットフォームを構築しており、株式会社信託投資情報センターより、サステナビリティを評価しております。</p> <p>当社は、従業員向けに「環境対応の投資先を選定した株式と債券」との取組により、社会・環境・社会実装の発展に貢献する」となっており、将来の成長と持続可能な発展に貢献し、環境に配慮した企業活動と社会貢献を推進し、ESG経営の取組を進めて、「脱炭素社会の実現」などの環境課題に積極的に取り組む、社会の持続的な発展に貢献していく方針です。カーボンフリー燃料エンジンの開発、社会実装は、こうした取組に資する取組の一つであり、本ローンで調達した資金を活用してカーボンニュートラルに積極的に貢献してまいります。</p> <p>2023年4月プレスリリース</p>

5. トピックス (ESG経営深化)

S : Social

より豊かな社会の創造を目指し、働きやすく人にやさしい職場環境づくりを進めているほか、地域社会の活性化に向けた取組みも推進中です

社会との連携	<ul style="list-style-type: none">・ 様々な場面で困難な状況に直面されている方々をサポートするべく、会社から支援金を寄付しています。また、会社構内にはチャリティー自販機も複数台設置しており、社員も参加しやすい活動とすることで、関係者一同で積極的に支援に取り組んでいます。<ul style="list-style-type: none">✓ 2023年度の寄付 (例)<ul style="list-style-type: none">・ 子供の居場所創設、ウクライナ人道支援など	 <p>構内設置チャリティー自販機</p>
ビジネスパートナーとの連携	<ul style="list-style-type: none">・ 当社ビジネスパートナー（サプライヤー）様向けに対面形式での事業戦略説明会を開催しました。<ul style="list-style-type: none">✓ 説明会は、コロナ禍で開催を自粛していましたが、今回、感染症対策を万全に講じた上で、参加人数も限定して開催。✓ 当社の最新状況や今後の事業展開、技術開発状況などをご説明し、理解を深めて頂くことができました。	 <p>事業戦略説明会の様子</p>
従業員との連携	<ul style="list-style-type: none">・ キャリアリターン制度、年間MVP表彰制度を新設しました。(2022年度～)<ul style="list-style-type: none">✓ やむを得ない事情で離職する社員の復帰を支援、また、各部門で顕著に活躍し、業務姿勢等も他の範となる社員について、社長名で表彰し、褒賞金を贈呈。✓ 従業員エンゲージメントの更なる向上を目指します。	 <p>年間MVP表彰時の様子</p>

法令・社会的規範の遵守で経営の信頼性を担保するとともに、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みを構築することで、企業価値を持続的に向上していきます

<p>ブライト500 認定取得</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社は従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取組みを進めておりますが、この姿勢をご評価いただき、2023年度からは、健康経営優良法人ブライト500の認定を取得しました。 	
<p>教育制度の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人財育成・リスクリソグへの積極的な投資 外部教育機関との連携で幅広い社員を対象に階層別の教育を体系的に実施中です。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 幹部・中堅社員：社外講師によるWEB研修など ✓ 若手社員：社内での集合研修、OJT、英語教育など 	
<p>知的財産権 の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社は、ライセンサーとしてエンジン開発に取り組んでおり、一定数の特許権を常時保有しております。 これらは、知的財産権として適切に管理するとともに、当社社員の職務上の発明に対しては、職務発明規程を設けることで、会社としての取扱いを明確にしています。 	



1, Minamifutami, Futami-cho, Akashi, Hyogo Pref., 674-0093, Japan

<https://www.j-eng.co.jp/>

< IRに関するお問い合わせ >

電話番号 : 078-949-0800 / Eメール : pr_info@j-eng.co.jp

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により、記載されている内容とは、大きく異なる結果となる可能性がございますこと、ご承知置きくださいます様、お願い申し上げます。

※本資料に記載の金額は、表示単位未満の端数を、四捨五入・切捨て等で調整して表示しております。